



2024年3月25日

各位

会社名 株式会社マーキュリアホールディングス
代表者名 代表取締役 豊島 俊弘
(コード番号：7347 東証プライム)
問合せ先 執行役員 経営管理統括 滝川 祐介
(TEL. 03-3500-9870)

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況及び 計画期間の変更について

当社は、2021年12月6日に「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」を提出し、その内容について開示しております。2023年12月末時点における計画の進捗状況等について、また、上場維持基準の適合に向けた計画の計画期間を変更しましたので、下記の通り、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間の変更

当社の2023年12月末時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、以下のとおりとなっており、「流通株式時価総額」については基準を充たしておりません。当社は、「流通株式時価総額」に関して、当社が掲げる2025年12月期を最終年度とする中期利益計画期間中の2023年12月期を目途に上場維持基準を充たす計画としておりましたが、計画期間を2024年12月期へ変更し、引き続き各種取組を進めてまいります。

		株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式 時価総額 (億円)	流通株式 比率 (%)	平均 売買代金 (億円)
当社の 適合状況 及び その推移	2021年6月末時点 (移行基準日時点)	3,466	81,767	65	46.3	-
	2022年12月末時点	4,230	122,169	74	56.8	0.35
	2023年12月末時点	3,599	115,359	87	53.6	0.37
上場維持基準		800	20,000	100	35	0.2
適合状況		適合	適合	不適合	適合	適合
当初の計画に記載した 計画期間		-	-	2022年12 月期~2023 年12月期	-	-
変更後の計画期間		-	-	2024年12 月期	-	-

※当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の実施状況及び評価

当社は、2021年12月6日に公表しました「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」において、①成功報酬の最大化、管理報酬の積み上げ、自己投資収益の拡充による中期利益計画の達成、②ビジョン、ミッション及び経営理念を基礎としたIR/PRの充実による市場評価の浸透、③持株会社をプラットフォームとした機動的な資本政策による成長基盤の確立を図ることを掲げました。

当初の計画に記載した計画期間である2023年12月末時点においてはプライム市場の上場維持基準について「流通株式時価総額」の基準は満たしておりませんが、「流通株式時価総額」は2021年6月末時点（移行基準日時点）及び2022年12月末時点と比較して、改善しており、直近（2024年3月22日現在）の株価にて計算した「流通株式時価総額」は100億円を超える水準にて推移しております。

計画期間は変更しますが、上場維持基準の適合に向けた取組は順調でありますので、今後も、変更後の計画期間を2024年12月期とした上で、計画書における基本方針に基づき、中期利益計画の達成、IR/PRの充実による市場評価の浸透、資本政策による成長基盤の確立に引き続き取り組んでまいります。

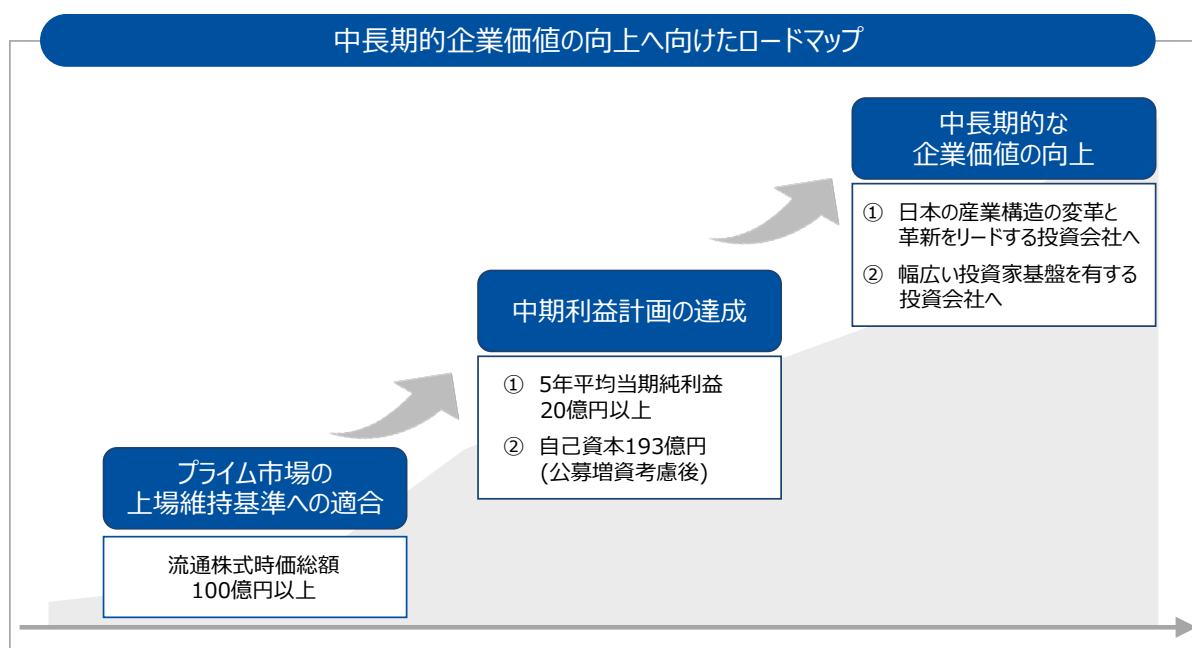
取組の実施状況及び評価は以下の通りです。

（基本方針）

当社は、上場会社として、プライム市場の上場維持基準への適合、中期利益計画の達成（2025年12月期）を通過点に、中長期的な企業価値の向上を目指します。

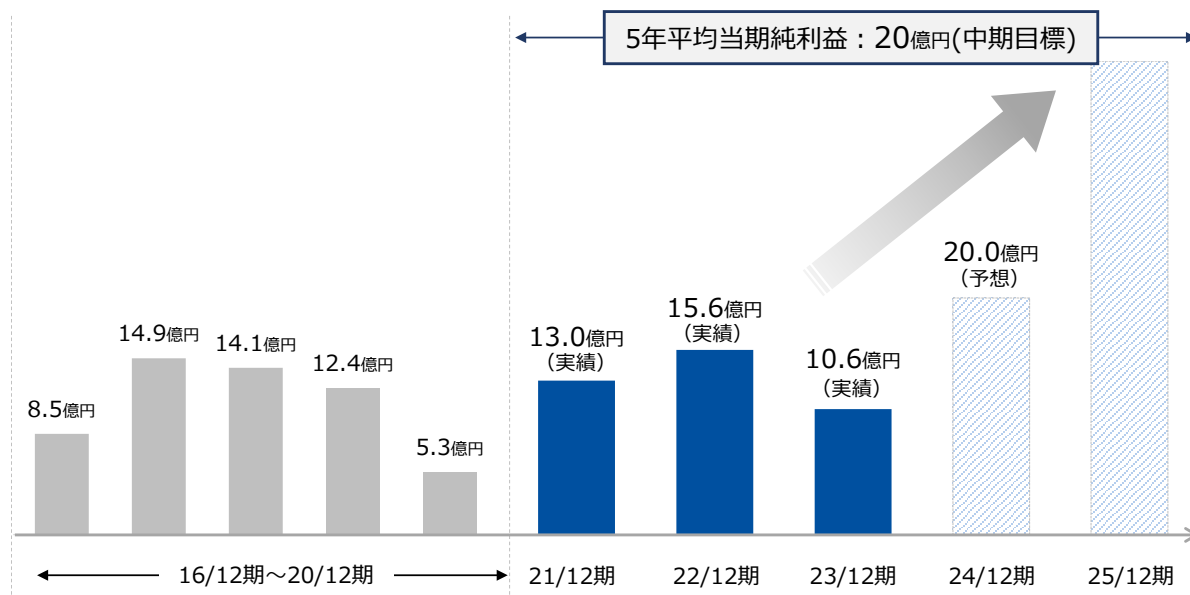
具体的には、バイアウトファンド事業、Spring REIT事業、資産投資ファンド事業の既存事業に加えて、新規企画事業も推進することで、成功報酬の最大化、管理報酬の積み上げ、自己投資収益の拡大を図るとともに、持株会社体制下で、IR戦略、資本政策を強化し、事業とコーポレートの循環体制を築きます。

中長期的には、1)日本の産業構造の変革と革新をリードする投資会社、2)幅広い投資家基盤を有する投資会社となるべく、引き続き中長期的な視点で企業価値の向上を目指します。



(業績向上による中期利益計画の達成)

当社は、2025年12月期までを計画期間とする中期利益計画として5年平均当期純利益20億円を目標としていますが、これまでの当期純利益は2021年12月期実績が13.0億円、2022年12月期実績が15.6億円、2023年12月期実績が10.6億円と推移し、2024年12月期予想は20.0億円を見込んでおります。



2023年12月期における主な実績及び2024年12月期の見込は以下になります。

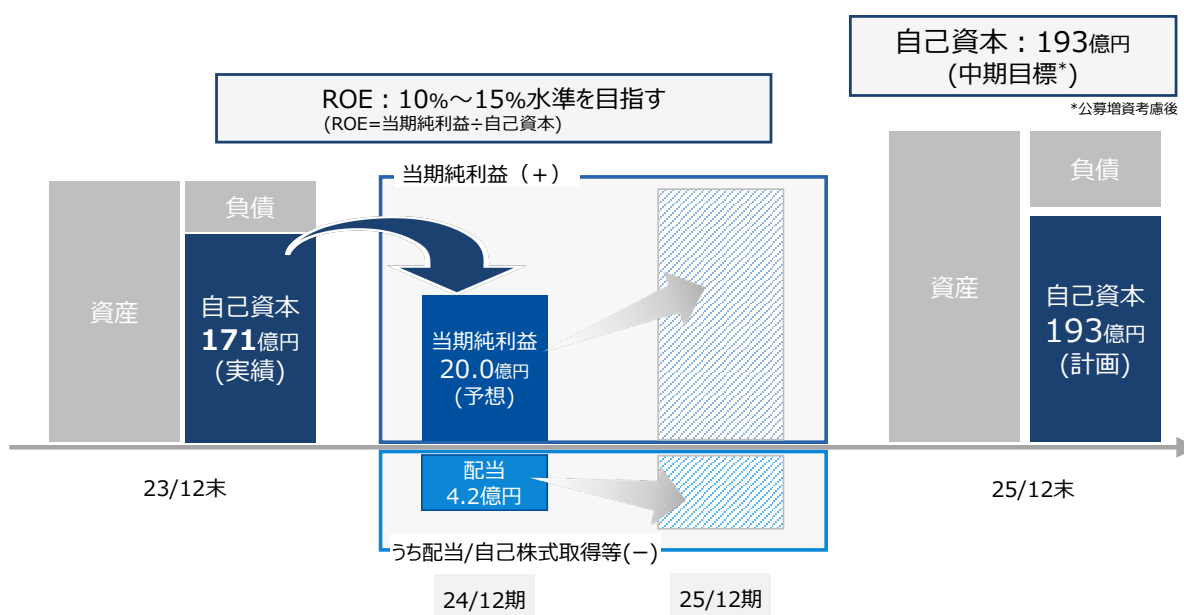
成功報酬の最大化	(2023年12月期実績)	<ul style="list-style-type: none"> 好調な運用を続けるバイアウト1号ファンドが保有する資産の売却による成功報酬を見込むも、想定していた案件の売却合意が後ろ倒しとなり、成功報酬は0.2億円にとどまる
	(2024年12月期見込)	<ul style="list-style-type: none"> バイアウト1号ファンドが保有する資産の売却による成功報酬ステージへの到達及び成功報酬の計上を見込む
管理報酬の積み上げ	(2023年12月期実績)	<ul style="list-style-type: none"> 上場前後に組成したバイアウト1号ファンドの後継ファンドとして組成した2号ファンドを、1号ファンドの2倍強となるファンド総額438.5億円にてファイナルクローズし、年間管理報酬は30億円水準まで増加
	(2024年12月期見込)	<ul style="list-style-type: none"> ファンド契約に基づき継続的な管理報酬の計上を見込む
自己投資収益の拡充	(2023年12月期実績)	<ul style="list-style-type: none"> 好調な運用を続けるバイアウト1号ファンドが保有する資産の売却による自己投資収益を見込むも、想定していた案件の売却合意が後ろ倒しとなり、自己投資収益は10.1億円にとどまる
	(2024年12月期見込)	<ul style="list-style-type: none"> 従前のSpring REITからの配当収入に加え、バイアウト1号ファンドが保有する資産の売却によるファンド損益取込による自己投資収益の計上を見込む

2023年12月期は見込んでいたバイアウト1号ファンドが保有する資産の売却の後ろ倒しにより、成功報酬ステージへの到達が遅れましたが、2024年12月期以降はバイアウト2号ファンドを中心としたファンドレイズにより積み上げた管理報酬に加えて、バイアウト1号ファンドが保有する資産の売却による成功報酬ステージへの到達と成功報酬の計上、自己投資収益の計上を見込み、中期利益計画である5年平均当期純利益20億円の達成を目指します。

単位：億円		21/12期 年間実績	22/12期 年間実績	23/12期 年間実績	24/12期 業績予想
営業収益		41.7	46.0	58.4	68
営業 総利益	管理報酬	18.9	24.4	30.0	67
	成功報酬	7.3	3.1	0.2	
	自己投資/ その他	10.1	16.5	10.1	
	合計	36.4	43.9	40.3	
営業利益		17.6	20.5	13.4	30
経常利益		18.2	22.1	15.2	30
親会社株主に帰属する 当期純利益		13.0	15.6	10.6	20

当社は、中期利益計画のもう一つの指標として2025年12月末までに自己資本を193億円（公募増資考慮後）とすることを目標としていますが、2023年12月末における実績自己資本は171億円です。

今後は5年平均当期純利益の目標を目指す中で、利益を積み上げることにより自己資本目標の達成を目指しますが、今後の計画期間においては、並行して配当等の資本政策を行うことでROE10%~15%の水準を目指します。



(IR/PRの充実による市場評価の浸透)

当社は「ファンドの力で、日本の今を変える」をミッションに掲げ、「幸せの総量を最大化する」、「クロスボーダー（国の壁、心の壁、世代の壁を超えて）」、「全ては事業のために」、「5年後の常識」を経営理念に掲げて事業を推進しております。

当社ではより多くの投資家の皆様に当社のミッション、事業、ファンド投資先の状況等を知って頂くべく、ホームページの充実（投資先情報の発信、英文開示の充実）、機関投資家との個別ミーティングの開催、個人投資家向け説明会の開催等、投資家の皆様と積極的な対話を行いました。

2023年12月期の主な実績は以下になります。

ホームページの充実 (投資先情報の発信、英文開示の充実)	<ul style="list-style-type: none">・当社事業をより身近なものと感じて頂くべく、当社ホームページにおいて、当社の投資理念、投資先ニュース、代表取締役へのインタビュー記事、投資先や投資家との対談記事を発信・海外投資家を呼び込むべく、英語サイトにて、決算情報やニュースリリース等の情報の充実を図るとともに、よりタイムリーな情報提供を開始
機関投資家向け説明会	<ul style="list-style-type: none">・年2回の機関投資家向け説明会を開催・説明会には代表取締役とコーポレート部門責任者に加えて、各事業部門責任者も登壇・機関投資家向け説明会の内容について、より多くの投資家に対して情報提供を行うべく、当社ホームページ上において書き起こしを掲載
個人投資家向け説明会	<ul style="list-style-type: none">・証券会社やIR会社が主催する個人投資家向け説明会を計3回開催

今後も投資家の皆様との積極的な対話を継続することで、当社のミッション、事業、ファンド投資先の状況等を知って頂き、当社が想定する潜在的な価値の実現に努めてまいります。

想定株式価値		時価総額
想定株式 価値の 構成要素	アップサイド価値 (成功報酬)	成功報酬の 期待値
	事業価値 (管理報酬)	長期契約に基づく 管理報酬基盤を有する 事業価値
	純資産価値 (自己投資)	自己資本171億円 +含み益の 資産価値
		当社が 想定する 潜在的価値
		213億円 (1,078円/株) ※2024年3月22日終値

(資本政策による成長基盤の確立)

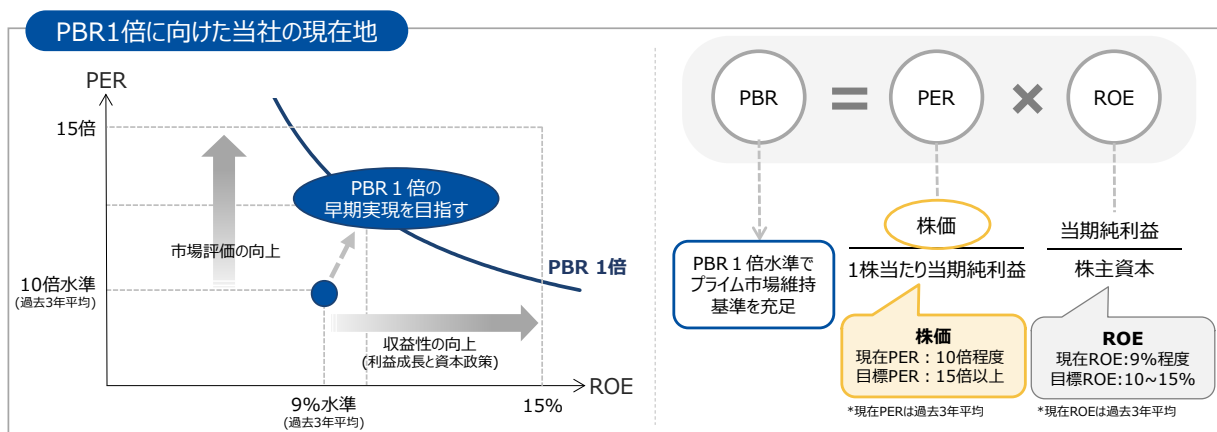
当社の2021年6月末時点(移行基準日時点)の流通株式比率は46.3%でしたが、2021年12月に行った公募増資により新株発行を行ったこともあり、2023年12月末時点における流通株式比率は53.6%となりました。2022年12月期及び2023年12月期は自己株式の取得も行いましたが、基本的には現時点における流通株式比率を基準として「流通株式時価総額」の基準の充足を目指します。

(PBR改善に向けた取組)

PBR(株価純資産倍率)については、2023年12月末における水準は0.85倍に対して、プライム市場の上場維持基準である「流通株式時価総額」基準を充足するために必要なPBRは1倍程度(100億円)の水準、PBRを構成するPER(株価収益率)及びROE(自己資本利益率)について、当社の過去3期間の平均はPERが10倍水準、ROEが9%水準になります。

今後PBR1倍の早期実現、更なる改善に向けて、PERについては「IR/PRの充実による市場評価の浸透」の取組により事業内容、事業進捗や損益構造を適切に投資家の皆様にお伝えすることで市場評価を高めること、ROEについては「業績向上による中期利益計画の達成」の取組により2024年12月期予算及び2025年12月期までを計画期間とする中期利益計画へ向けて着実に利益を積み上げることで収益性を高めることを、それぞれ目指します。

	基準期間 22年10月~12月平均	基準期間 23年10月~12月平均	プライム市場 上場維持基準充足
流通株式時価総額	73.9億円	86.6億円	100億円
株価	604.9円	750.3円	870円
PBR 1株当たり自己資本：883.56円 (23/12末実績)	0.73倍 (829.2円-22/12期末実績)	0.85倍	0.98倍



中期利益計画の達成

- 成功報酬の最大化
- 管理報酬の積み上げ
- 自己投資収益の拡大



**市場評価の浸透
(IR/PR)**

- ミッションと経営理念の再定義
- IR/PRの充実により企業価値への理解を促進



**成長基盤の確立
(資本政策)**

- 持株会社をプラットフォームに各戦略の機動的展開を促進
- 借入金及びエクイティを活用した積極的な資本政策の遂行